

視察・研修報告書

視察・研修先	人口減少対策・地方創生特別研修
日時	令和6年4月18日(木)～19日(金)
場所	リファレンス国際ビル
テーマ	人口減少に勝ち抜く戦略 人口減少と共存する方策
対応者 (講師)	基調講演:牧瀬 稔 氏
概要	<p>●まち・ひと・しごと創生法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・内容を精査 ・地方創生(第1期)の政策目標・将来人口推計 2060年に約8600万人まで減る予測となっている。そして国は2060年の目標人口は約1億人としている。⇒想定より1400万人増 <p>●人口減少時代の中の政策づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は人口減少社会を歩んでいる。この時代に自治体はどのように勝ち残っていくのか「勝たなくてよい」という選択肢もある ・多くの自治体が人口の維持(増加)、現象速度を落とすことを前提とした政策づくりを進めている <p>●地方創生元年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年4月3日に総理大臣官邸で「台5回まち・ひと・しごと創生本部」会合が開催されえた。同会合で当時の安倍総理は「本年は地方創生元年です。地方の総合戦略の策定・実施が開始される地方創生を成功させ、我が国の人口減少に歯止めをかけるためには、その取り組みをスピードアップさせなければなりません」と述べ、2015年が「地方創生元年」と言うことを宣言した <p>●人口(住民)を増やす取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然増 <p>①出生数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦(既婚者)に現状より「もう一子以上」多く生んでもらう ・独身者に結婚してもらう <p>②死亡数の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に元気で長生きしてもらうことが考えられる ・15歳以上は自殺も増えてくる中、不慮の事故や悪性新生物、自殺等を少なくしていく <p>●自然増の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然増を実現するには、大きく下記の4視点からの取り組みが必要 <ol style="list-style-type: none"> 1:既婚者を対象 2:独身者を対象 3:高齢者を対象 4:高齢者外を対象 <p>●コンパクトシティの定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高密度で近接した開発形態

- ・公共交通機関でつながった市街地
 - ・地域のサービスや尺場までの移動の容易さ
 - 注目を集めるシビックプライド
 - ・シビックプライドに価値を見出す自治体もある
 - ・シビックプライドが人口の維持・増加に影響している可能性がある
 - 関係人口に価値を見出す自治体
 - ・活動人口
 - ・関心人口
 - ・問題人口
 - ・弊害人口
 - ・活動人口の創出は、人口が減っても元気で価値ある地域になるかもしれない
 - シビックプライド×関係人口
- 新しい地方創生の形

所 感

今回の視察で「人口減少と共存する方策を打ち出すために」まずは、シビックプライドを前面に掲げ、市民一人一人が感じる「大野城市への誇りや愛着」を深め、シビックプライド×関係人口行＝活動人口の創出へとつなぎ合わせることの大切さ、また、「大野城市と云えば〇〇」と市民は勿論全国に浸透するようなものを考える。そして人口減少と共存する方策として、地方創生を活用した大野城市のブランドを確立し、地方自治法の規定第 1 条の2「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図る事を基本とする」事を忘れず、魅力ある大野城市として、これから官民連携の輪が充実することが重要だと感じた。

-作成者 福澤 信光-